

聖書に登場する「酔」

創世記	9:21 あるとき、ノアは ぶどう酒 を飲んで酔い ^{※1} 、天幕の中で裸になっていた。 9:24 ノアは酔いからさめると、末の息子がしたことを知り、
申命記	32:42 わたしの矢を血に酔わせ/わたしの剣に肉を食らわせる。殺された者と捕らえられた者の血を飲ませ/髪を伸ばした敵の首領の肉を食らわせる。』
サムエル記 上	1:13 ハンナは心のうちで祈っていて、唇は動いていたが声は聞こえなかった。エリは彼女が酒に酔っているのだと思ふ。
	1:14 彼女に言った。「いつまで酔っているのか。酔いをさましてきなさい。」
	25:36 アビガイルがナバルのもとへ帰つてみると、ナバルは家で王の宴会にも似た宴会の最中であった。ナバルは上機嫌で、かなり酔つていたので、翌朝、日が昇るまで、彼女は事の大小を問わず何も話さなかった。
	25:37 翌朝、ナバルの酔いがさめると、彼の妻は成り行きを話して聞かせた。ナバルは意識を無くして石のようになつた。
サムエル記 下	11:13 ダビデはウリヤを招き、食事を共にして酔わせたが、夕暮れになるとウリヤは退出し、主君の家臣たちと共に眠り、家には帰らなかつた。
	13:28 アブサロムは自分の従者たちに命じて言った。「いいか。アムノンが酒に酔つて上機嫌になったとき、わたしがアムノンを討つて命じたら、アムノンを殺せ。恐れるな。これはわたしが命令するのだ。勇気を持て。勇敢な者となれ。」
列王記 上	16:9 その家臣で戦車隊半分の長であったジムリが謀反を起こした。そのとき、エラはティルツアにいて、ティルツアの宮廷長アルツアの家で酒に酔つていた。
	20:16 彼らが出陣したのは正午であったが、ベン・ハダドと援護に来た三十二人の王侯たちは仮小屋で酒を飲んで酔つていた。
ヨブ記	12:25 光もなく、彼らは闇に手探りし/酔いしれたかのように、さまよう。
詩編	69:13 町の門に座る人々はわたしを非難し/強い酒に酔う者らはわたしのことを歌います。
	78:65 主は、眠りから覚めた人のように/酔いから覚めた勇士のように奮い立ち
	107:27 酔つた人のようによろめき、揺らぎ/どのような知恵も呑み込まれてしまった。
箴言	5:19 彼女は愛情深い雌鹿、優雅なもしか。いつまでもその乳房によって満ち足り/常にその愛に酔うがよい。
箴言	5:20 わが子よ/どうしてよその女に酔うことがあろう/異邦の女の胸を抱くことがあろう。
	20:1 酒は不遜、強い酒は騒ぎ。酔う者が知恵を得ることはない。
	23:35 「打たれたが痛くもない。たたかれたが感じもしない。酔いが醒めたらまたもっと酒を求める。」
	26:9 愚か者の口にすることわざは/酔っぱらいの手に刺さるとげ。
コレヘトの言葉	10:17 いかに幸いなことか/王が高貴な生まれで/役人らがしかるべきときに食事をし/決して酔わず、力に満ちている國よ。
雅歌	5:1 わたしの妹、花嫁よ、わたしの園にわたしは來た。香り草やミルラを摘み/蜜の滴るわたしの蜂の巣を吸い/わたしの ぶどう酒 と乳を飲もう。友よ食べよ、友よ飲め。愛する者よ、愛に酔え。
イザヤ書	24:20 地は、酔いどれのようによろめき/見張り小屋のようによらゆらと動かされる。地の罪は、地の上に重く/倒れて、二度と起き上がることはない。
	28:1 災いだ、エフライムの酔いどれの誇る冠は。その麗しい輝きは/肥沃な谷にある丘を飾っているが/しほんでゆく花にすぎない。酒の酔いによろめく者よ
	28:3 エフライムの酔いどれの誇る冠を/御足で踏みにじられる。
	29:9 ためらえ、立ちすくめ。目をふさげ、そして見えなくなれ。酔っているが、 ぶどう酒 のゆえではない。よろめいているが、濃い酒のゆえではない。
	49:26 あなたを虐げる者に自らの肉を食わせ/新しい酒に酔うように自らの血に酔わせる。すべて肉なる者は知るようになる/わたしは主、あなたを救い、あなたを贖う/ヤコブの力ある者であることを。
	51:21 それゆえ、これを聞くがよい/酒によらずに酔い、苦しむ者よ。
	63:6 わたしは怒りをもって諸国の民を踏みにじり/わたしの憤りをもって彼らを酔わせ/彼らの血を大地に流れさせた。
	13:13 あなたは彼らに言いなさい。「主はこう言われる。見よ、わたしは、この国のすべての住民、ダビデの王座につくすべての王、祭司、預言者、およびエルサレムのすべての住民を酔いで満たす。」
エレミヤ書	23:9 預言者たちについて。わたしの心臓はわたしのうちに破れ/骨はすべて力を失った。わたしは酔いどれのよう/酒にのまれた男のようになった。それは、主のゆえ/その聖なる言葉のゆえである。

エレミヤ書	25:27 あなたは彼らに言うがよい。「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。飲んで酔い、おう吐し、倒れて起き上がるな、わたしがお前たちの中に送る剣のゆえに。
	48:26 主に向かって高ぶったモアブを、酔いしれたままにしておけ。モアブはへどの中に倒れて、笑いものになる。
	51:7 バビロンは主の手にある金の杯/これが全世界を酔わせた。国々はその酒を飲み/そのゆえに、国々は狂った。
	51:39 わたしは、たけりたつ彼らに/宴を設けて酔わせる。彼らは泥酔して、よろめき/いつまでも眠り続けて目を覚まさないと/主は言われる。
	51:57 わたしはバビロンの高官、知者、総督、長官、勇士らを酔わせる。彼らはいつまでも眠り続けて目を覚ますことはない、とその御名を万軍の主という王が言われる。
哀歌	4:21 娘エドムよ、喜び祝うがよい/ウツの地に住む女よ。お前にもこの杯は廻って来るのだ。そのときは、酔いしれて裸になるがよい。
エゼキエル書	23:33 お前は酔いと悲しみで満たされる。恐れと滅びの杯/お前の姉サマリアの杯
	39:19 お前たちは、わたしがお前たちのために屠った犠牲から、飽きるまで脂肪を食べ、酔うまで血を飲むがよい。
ホセア書	4:18 彼らは酔いしれたまま、淫行を重ね/恥知らずなふるまいに身をゆだねている。
ヨエル書	1:5 酔いしれる者よ、目を覚ませ、泣け。酒におぼれる者よ、皆泣き叫べ。泡立つ酒はお前たちの口から断たれた。
ナホム書	1:10 彼らは酒に酔いしれ/絡み合った茨のようになっているが/乾ききったわらのように焼き尽くされる。
	3:11 お前もまた、酔いつぶれて我を失う。お前もまた、敵を避けて逃げ場を求める。
ハバクク書	2:15 災いだ/自分の隣人に怒りの熱を加えた酒を飲ませ/酔させて、その裸を見ようとする者は。
	2:16 お前は栄光よりも恥を飽きるほど受ける。酔え、お前も隠し所を見られる。お前のもとに、主の右の手の杯と恥辱が/お前の栄光の代わりに回ってくる。
ハガイ書	1:6 種を多く蒔いても、取り入れは少ない。食べても、満足することなく/飲んでも、酔うことがない。衣服を重ねても、温まることなく/金をかせぐ者がかせいでも/穴のあいた袋に入れるようなものだ。
ゼカリヤ書	12:2 見よ、わたしはエルサレムを、周囲のすべての民を酔わせる杯とする。エルサレムと同様、ユダにも包囲の陣が敷かれる。
ルカによる福音書	12:45 しかし、もしその僕が、主人の帰りは遅れると思い、下男や女中を殴ったり、食べたり飲んだり、酔うようなことになるならば、
ヨハネによる福音書	2:10 言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったころに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」
使徒言行録	2:13 しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。=Others mocking said, These men are full of new wine.
	2:15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っている※2のではありません。
コリント信徒への手紙I	11:21 なぜなら、食事のとき各自が勝手に自分の分を食べてしまい、空腹の者がいるかと思えば、酔っている※2者もいるという始末だからです。
ガラテヤの信徒への手紙	5:21 ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです。以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。
エフェソの信徒への手紙	5:18 酒に酔い※2してはなりません。それは身を持ち崩すもとです。むしろ、靈に満たされ、
テサロニケの信徒への手紙I	5:7 眠る者は夜眠り、酒に酔う者は夜酔います※2。
ペトロの手紙I	4:3 かつてあなたがたは、異邦人が好むようなことを行い、好色、情欲、泥酔、酒宴、暴飲、律法で禁じられている偶像礼拝などにふけっていたのですが、もうそれで十分です。
ヨハネの黙示録	17:2 地上の王たちは、この女とみだらなことをし、地上に住む人々は、この女のみだらな行いのぶどう酒に酔って※2しました。」
	17:6 わたしは、この女が聖なる者たちの血と、イエスの証人たちの血に酔いしれているのを見た。この女を見て、わたしは大いに驚いた。

※1：シャツヘアール=ほろ酔いになる。限定的な意味では、刺激的な飲み物や（比喩的に）影響で満足する：（満たされる）飲み物（豊富に）、（酔う、させる）、陽気になる。7937

※2：メスウォ=酔うまで飲む、酔う、十分に飲む、酔わせる。=メスイスコ 3184 3182

聖書における「酔い」は、単なる酒による酩酊を超え、人間を支配し理性や靈的判断力を失わせる状態を象徴する言葉です。文字通りの酔いは罪や悲劇を招く契機として描かれ、比喩的には神から離れた混乱や盲目を表しています。また預言書では、神の裁きを避けがたく受ける姿を示す象徴ともなっています。一方で、愛や神の靈に「酔う」ことは、人を満たし、命へと導く肯定的な意味も持っています。

聖書において「酔い」という表現は、単に酒を飲んで意識が朦朧とする身体的状態を指すにとどまらず、人間の内面や靈的状態、さらには神の裁きの現実をも表現する、きわめて幅の広い象徴語として用いられている。

創世記9章のノアの記事や、サムエル記に登場するナバルやウリヤの場面が示すように、文字通りの酔いは判断力を鈍らせ、人を無防備にし、罪や悲劇が表面化する契機となっている。

聖書は飲酒そのものよりも、酔いによって人が自制を失い、神と人の前での責任を見失う状態を問題として描いている。

しかし旧約・新約を通して用いられる「酔い」は、必ずしも酒に起因するものではない。

ヨブ記、詩編、イザヤ書に見られるように、「酔ったようにさまよう」「酒によらずに酔う」といった表現は、靈的混乱や方向喪失、真理を見分ける力を失った人間の姿を比喩的に表している。

「酔い」は、神から離れた結果として人間が陥る内的な盲目と不安定さを描写する言葉であり、外見上は正常であっても、内面ではすでに酩酊している状態を指している。

さらに預言書において「酔い」は、神の裁きを表す強い象徴として用いられている。

申命記やイザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、そして黙示録に至るまで繰り返される「杯」「酒」「血に酔う」という表現は、神ご自身が主体となって諸国や民を酔わせる場面であり、それは避けがたく注がれる裁きの現実を示している。杯を飲み干すとは、責任と結果を全面的に引き受けることであり、神の正義が完全に行われる事の象徴である。

「酔い」は快楽ではなく、人間が自ら選び取った罪の帰結として、もはや自分では制御できない状態に置かれることを意味している。

一方で箴言や雅歌に見られるように、「酔い」は必ずしも否定的な意味だけを持つわけではない。愛に酔う、喜びに満たされるという表現は、人がある対象に深く没入し、心が占められる状態を肯定的に描いている。

「酔い」は破壊ではなく、結びつきと充足を表す詩的な言葉であり、人間が本質的に「何かに支配されて生きる存在」であることを示唆している。

新約聖書において、この「酔い」の概念は決定的な対比の中で再定義される。

使徒言行録やエフェソの信徒への手紙が示すように、酒に酔うことと聖靈に満たされることは対照的に置かれ、前者は自己喪失と放縱へ、後者は人格の回復と神への従順へと人を導くものとして描かれる。ここで「酔い」は、単なる状態ではなく、「何に自分を明け渡しているか」という靈的選択の問題として提示されている。

テモテへの手紙一5：23=医療的・配慮に満ちた助言で、飲酒の奨励ではない

これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、度々起こる病気のために、ぶどう酒を少し用いなさい。